

令和5年度第1回総合教育会議議事録

(要 旨)

開催日 令和6年1月24日(木) 13:30~15:11

開催場所 名寄市民文化センター 音楽スタジオ2

出席者 市長 加藤 剛 士
教育長 岸 小夜子
職務代理 松田 潤子
委員 高橋 雅樹
委員 中枝 範子
委員 梅野 新 (欠席)

事務局職員 総合政策部長 石橋 毅 (欠席)
総合政策部総合政策課長 室 秀樹 (欠席)
総合政策部参事(地域課題担当) 武田 佳和 (代理)
教育部長 木村 睦
学校教育課長 菊池 崇史
参事(特命課題担当) 土井 涉
参事(指導主事) 馬場 泰栄
生涯学習課長 佐々木 憲一
生涯学習課主幹 白井 薫
智恵文公民館長 吉田 清人
参事(風連公民館長) 小笠原 弘 (欠席)
主査 若林 和紀 (代理)
学校教育課主幹 菊池 剛
学校教育課総務係長 石倉 あゆ美

傍聴者 1名

議 事 名寄市の高齢者大学・学級の在り方について

会議録（要旨）

進行：菊池学校教育課長

- 1 開 会 午後 1 時 3 0 分
- 2 市長挨拶
- 3 議 事

※設置要綱第 4 条の規定により市長が議長を務める。

(1) 名寄市の高齢者大学・学級の在り方について

〔生涯教育課長〕

名寄市の高齢者大学・学級の在り方については、昨年 3 月の総合教育会議で提案した内容と会議での意見を踏まえ、ピヤシリ大学、瑞生大学、友朋学級については、現行の体制のままそれぞれ継続することとなりました。しかし、ピヤシリ大学の令和 5 年度の入学生が 1 人といった状況や学生数 11 人の現状の中、事務局内の協議で、ピヤシリ大学を募集停止とするなど体制の変更が必要と判断し、学生、同窓会からも意見をいただき、ピヤシリ大学運営委員会に諮りました。

募集停止に対して、学生、同窓生からは、「瑞生大学、友朋学級は残すのに名寄地区だけ高齢者の学びの場が少なくなる」などの意見が寄せられ、運営委員会でも「廃止するのは忍びない」などの意見をいただきました。

事務局で改めて協議を行い、ピヤシリ大学の学年制を廃止し単年度ごとに実施すること、授業内容などは学生の主体的な参画により決定することなどを今後の方向性としてきました。

これに対し、学生、同窓会からは、「体制変更で大学が残る形となって安心した」といった意見が出され、ピヤシリ大学運営委員会では「存続の方向性でよかった」などの意見が出されました。

高齢者大学・学級の今後ですが、ピヤシリ大学を体制変更し、瑞生大学、友朋学級は現状のままとするよう考えています。

生涯学習の方向性については、生涯学習社会を形成する上での目指す姿は「子どもから高齢者まで幅広い年齢層が生涯にわたって自ら学ぶことができ活躍できる社会」とし、目指す姿とするために「高齢者大学・学級の見直し」の実施や市内の社会教育施設の連携による市民講座の充実、新たな分野や多様な分野の向上に取り組むことなど市民講座を充実させてまいりたいと考えています。

(委 員)

高齢者という言葉に違和感、拒絶感がある。「65歳以上が高齢者」にも抵抗感がある。現状の高齢者大学・学級に参加したいとは思わない。

[議 長]

働き方も随分変わりつつあり、高齢者という垣根が曖昧になっている。

高齢者の皆さんが自発的に集まる老人クラブと高齢者大学・学級との違いは何なんでしょう。

(生涯学習課長)

老人クラブについては、基本的に集まってレクリエーションなど趣味の活動が中心で、高齢者大学・学級は「学び」が加わり生涯学習の一環としてカリキュラムを持ちながら、それぞれの大学・学級を運営しています。高齢者学級については、「学び」がキーワードになってくると考えます。

[議 長]

市民講座でも高齢者は学べます。これだけ入学者が減っている、あるいは率直に自分には入らないという声もある中で、高齢者だけにフォーカスする意義は。

(生涯学習課長)

高齢者のみに特筆することはありませんが、人との繋がりは市民講座でもできますが、高齢者大学・学級は組織として繋がりが生まれるものと考えています。

(委 員)

高齢者大学・学級の見直しで、健康寿命も伸び、元気で活動的な方や地域の中心になっている方がたくさんいるので、学習成果の社会還元も視野に入れ、高齢者大学・学級、生涯学習を続けていく、考え方を広げるような目的はないのかお伺いしたい。

(教育長)

生涯学習は人づくり、繋がりづくり、地域づくりです。学んだら、それを次に繋ぐ、還元するとか、皆が当事者意識を持って参画する形を作っていくのが社会教育というのが今の時代なので、高齢者大学・学級に限ったことではなく、社会教育が役割を果たす時代になっています。

(委 員)

講座の内容を社会に還元してもらえそうな講演や意識改革をしてもらうためのカリキュラムを組入れたりすることも考えているのでしょうか。

(生涯学習課長)

講座の中身・授業については、学生の意見を聞きながら決定していきたいと思っています。地域活動への還元については、人づくり、繋がりづくり、地域づくりになってきますので、少しでも地域に還元できるような活動になるよう意見をいただきたいと考えています。

[議 長]

現在、ピヤシリ大学、瑞生大学、有朋学級のカリキュラムを決める方法は。

(生涯学習課長)

ピヤシリ大学は、事務局が決めています。

(主査(風連公民館長代理))

瑞生大学では、年度当初に月3回を基本に年間学習計画を立てています。計画には未定の部分もあり、その部分については、学生の自治会と相談しながら、希望の講義などを行っています。

(智恵文公民館長)

有朋学級は、年間20回ほど開催しており、健康管理、生きがい、地域問題といった大きなテーマを元に、カリキュラムについては事務局で計画立案しています。有朋学級単独で開催の講座もありますし、公開講座は、地区の住民にも参加を呼びかけたり、夏休み冬休み期間中に世代交流を図る目的で、子供と一緒に交流できるような企画を実施しています。

(委員)

より健康に高齢者が過ごしていくことで、医療費の抑制を期待できる場所があります。名寄、風連、智恵文の参加者の特性は全然違いますが、名寄は奉仕の活動をされている方が多く、高齢者大学・学級には参加しないというのもあると思います。ただ人が集まらないから終わらせますではなく、学ぶことは将来を通して保証してあげたい。

(教育長)

皆さんの意見を聞いてクリアになったのが、市民講座は単発なので誰でも参加できますが、一方で、高齢者大学・学級には学びを通して人と繋がりたい人達がいることが分かりました。年齢は別にして、価値観が多様になった中で、それぞれ住んでる場所に特徴もあるので、複数の場所において個人参加もできる市民講座と、継続してお互いに顔見知りの中で学んでいくような学びの保証の場の設定は必要で、その持ち方については吟味しなければならないと思います。時代やニーズに応じて内容改善・体制改善はピヤシリ・瑞生大学も有朋学級も必要だと思います。毎年講座の評価をもらいながら、きちんとPDCAを回していくということも必要と感じています。

(委員)

受動的な考え方の人は私より上の世代が特に多い。私より下の世代は選択科目から興味・関心があるものだけ選択することができるので、自由度があって興味のあるカリキュラム作りが必要ではないか。専門、一般教養の中で選択できると良いと思う。

[議長]

与えられた学びでも、そこに繋がりがあってもいいかもしれない。その居場所はまだ残していかなければならない。ピヤシリ大学には行政支援、人的支援もしてきているので、少し体制を変えて整理しつつ、良い方向に向かっていけないか考えている。

(委員)

ピヤシリ大学の体制変更で、「学生の主体的参画によって決定する」を打ち出しています。自ら進んで変わっていく学びはすごく大事だと思います。その反面、老いてくるとそれが負担で学びに参加できなくなることを懸念しています。行政は行政としての役割を十分果たす上で、学生の考えを取り入れていただきたい。

(委員)

講座の内容として、デジタル化が進んでいますので、そういう講座を企画するのはと

ても良いアイデアと思いますが、高齢者が身体的にも経済的にも自立した生活が送れるような内容の講座も考えていただきたい。また、死生観に関する学びの講座を取り入れている市もあり、こういった講座もあるのだと思いました。

(生涯学習課長)

圧倒的多数の高齢者がデジタルリテラシーが低いので、新しい分野を考えていきたいと思っています。また、令和6年度の事業の中に社会教育の連携をあげており、各施設で行っている市民講座の公表に取り組んでいこうと思っています。特に天文台や博物館などは専門的な講座を行っていますので、そういった所を市民にお知らせしながら市民講座の充実に取り組んでいきたいと思っています。

(教育部長)

それぞれの施設で実施していたことを連携できるところは連携しながら事業を展開したいと考えています。

[議 長]

高齢者学級のカリキュラムについては地域性があることは理解するが、皆で学んでほしいことは、共通科目として組み入れていくことが効果的なので、そこは議論して進めてほしい。

(教育長)

名寄市には様々な学びの機会があり、市民は自分の好きな学びを選択できます。生涯学習課はリサーチをかけて、ニーズが満たされていない学びを用意をする必要があると思っています。生涯学習課が情報の拠点として、学びたいときに、ここに来たら学べますと情報発信できればと思います。

(委 員)

学びたくても、自分は何を学びたいのかわからない方も多いので、コーディネーターや相談の窓口などがあればよいと思います。

(委 員)

日常的に名寄市では講習会が多く、参加されている方は高齢者が多い。経営者の方は高齢な方が多く、そういう方々はいろいろなところに参加して講習を受けているので、高齢者大学・学級には入らないのかなと思いました。

[議 長]

高齢者大学・学級についてはカリキュラムの統一化も図りながら、より効果的、効率的な運用の仕方を模索し、目指す姿とするために、多様な学びを連携していく、その連携にはいろいろな学びがありますが、教育委員会だけではなく市の施設や市だけではなく北海道や国にもいろいろな学びが展開されているので、それらを活用する方向性が良いのではないのでしょうか。

(委 員)

高齢者大学・学級に行かないと、学べない高齢者は結構いるのではという気がします。生活の身の回りのこと、生活に関連するような学習、そこに行けば学べる場所は必要と思います。

(委員)

高齢者の方はデジタル化が苦手なところがありますが、デジタルリテラシーの必要性は不可欠になってきているので、高齢者の方がより優しく学べる機会が必要です。

大変貴重な意見をいただき、ありがとうございました。
以上を持ちまして閉会とさせていただきます。

5 閉 会 午後 3 時 1 1 分